

川崎市青少年科学館における来館者からのレファレンスについて

本郷智子*・高中健一郎*・杉浦孝弘*・高橋裕*・津田由美子*

References from visitors at Kawasaki Municipal Science Museum

Tomoko Hongo*, Kenichiro Takanaka*, Takahiro Sugiura*, Hiroshi Takahashi* and Yumiko Tsuda*

はじめに

川崎市青少年科学館（以下、科学館）は、令和3年度に50周年を迎え、市民とともに歩む身近な自然科学系の登録博物館として多くの市民の来訪を受け、学びの場として活用されている。自然分野、天文分野、科学分野の3つの分野の事業を展開し、来館者は展示やプラネタリウム、ワークショップ等のイベントを利用している。また、自然科学系の博物館である当館には、来館者から自然科学関連の様々な質問や問合せがあり、これらに対するレファレンス対応の機会も多い。その内容は、自然分野だけでも植物、昆虫、野鳥、両生類、爬虫類、哺乳類、その他動物、地質、気候と多様であり、加えて科学一般、天文分野等の幅広い分野を扱わねばならない。現在科学館の学芸分野は、「自然・科学班」、「天文班」と2班に分かれて業務を実施しており、上述したレファレンス内容で自然・科学班が担当するのは、上記「天文」分野を除く全般であり、多岐にわたる。科学館は過去にも来館者から多くのレファレンスを受けてきているが、これまでその内容について特に記録されていなかった。

しかしながら、来館者からのレファレンス内容を記録し、レファレンス記録を科学館内で共有・保管することで、科学館の将来の在り方への一助になると考え、2020年8月からレファレンスを試行的に記録してきた。本稿では、自然・科学分野についてのレファレンス記録の1年間分を整理し、来館者からの質問がどのような分野について多いのか、どのようなことに興味関心を持っているのかを、その傾向について紹介する。

レファレンス記録方法と項目について

レファレンス記録方法は、年月日、曜日、時間、質問者の年齢層（目視判断による推定）、質問内容、回答、参考文献・その他特記事項の項目を入れた記録専用用紙を作成

し、それに記入することとした。レファレンス対応は、原則2名で行い、1名が質問への回答（主に学芸員）、もう1名が記録をすることとした。今回は、2020年8月から2021年7月までの1年間で得られた自然・科学分野のレファレンス記録について、「植物」「昆虫」など大まかな質問内容のみ分類し、整理した。年齢の記録にあたっては、本人に実年齢の確認をしていないが、どのような年齢層にニーズがあるか整理するために、記録者が年齢を推定し、記録した。

レファレンスの記録結果

レファレンス内容については、植物37件、昆虫18件、鳥5件、動物5件、地層・石7件、その他8件、科学1件であった。植物についてのレファレンスが最も多く全体45.7%を閉めており、次いで昆虫が22.2%であった（図1）。月別でみると、4月が最も多く21件、次が9月、10月、3月の8件、6月の7件と、季節的に春と秋で、植物が最も多かった（図2）。特に4月は、生田緑地内の植物の開花時期であり、花の種類や名前についての質問等植物に関するものがほとんどであった。また7・8月の来館では夏休みの自由研究についての質問や、長期の休み以外でも週末などの休日に小学生の保護者と子どもが学校の授業の予習のため、

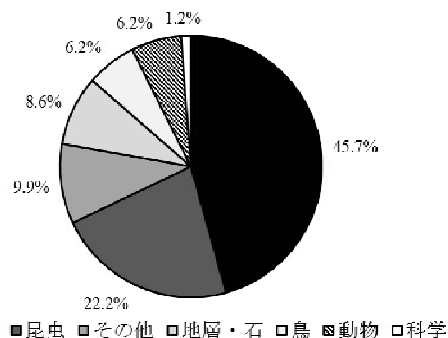


図1.レファレンス項目の割合

*川崎市青少年科学館（かわさき^{そら}宙と緑の科学館）Kawasaki Municipal Science Museum

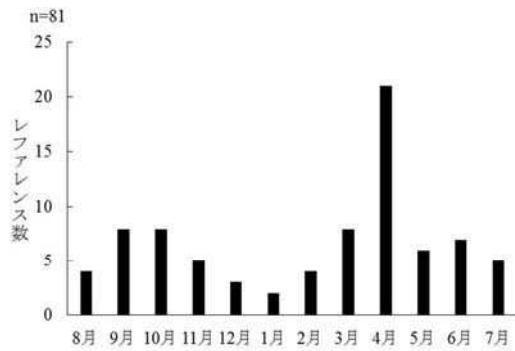


図2. 来館者からのレファレンス数の推移

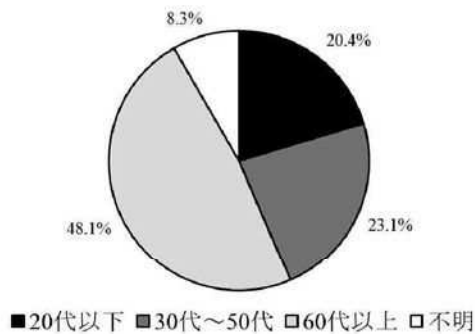


図3. レファレンス依頼があった年齢層の割合

地層について聞いてくるということもあった。質問件数で次に多いのは昆虫の18件であったが、昆虫は興味のある場合のほか、害虫や見た目が不快な昆虫についての相談のようなケースもあった。

また、質問はほとんどが来館によるもので69件、電話が11件、メールは1件であり、年齢層は60代以上のシニア層が最も多く、全体の48.1%であった(図3)。また、20代以下と30～50代は、複数人数で来館でのレファレンスであり、保護者と子どもの組み合わせと思われるグループであった。

まとめ

質問の種類は、年間を通じて植物が37件と最も多く、次は昆虫で「名前を知りたい」という簡易な質問が多かった。利用年代は60代以上のシニア層が最も多く、生田緑地四季折々の自然を楽しみに来訪し、そこで見た植物や昆虫などの名前などを聞きに気軽に科学館へ立ち寄っている。また「自由研究」の情報収集や学校の授業の下見等での来館も見られた。

まだ1年間の短期間レファレンス記録であるが、興味関心や活用目的等の傾向が見

え、自然科学関連の教育普及やSNSなどを利用した科学館の魅力発信に役立てることができると思う。今後も活用方法や記録項目についても検討しながら、継続していきたい。